

大久野通信 vol.8

さよならニンニ君



スギ花粉の季節が終わり今度はヒノキ、花粉症持ちには辛い時期がもう暫く続きます。そんな時期ですが、里山では嬉しい山の便りも。活動拠点の裏山にある竹林では、至る所でひょこひょことタケノコが姿を現します。今年は豊作と言われる「表年」に当たります。「筍の親勝り」とはあつという間に親を凌ぐことの例えですが、ことわざの通り、収穫しきれなかったタケノコは僅かの間に竹へと成長してしまいます。そんな春の息吹に鼓舞されながら、今年も農業実証に挑戦する大久野倶楽部です。



巨大化したタケノコ、でも食するメンバーも…

INDEX

- ・春腐病？
- ・続、ジャガイモよ！再び
- ・今後の展望

春腐病？

思わぬ壁に直面していたニンニク栽培ですが、除草などして復活を願ったものの未枯れの勢いは防げませんでした。思えば、腰の辛さに耐えながら 1200 粒の鱗片を植え切り、大量収穫を夢見たのですが・・・。葉が黄色に変色し粘り気を帯びて溶ける感じになる、この症状“春腐病”という病気のようなのです。厳しい冬を無事に乗り越え、漸く春めいたこの時期に思わぬ災難です。どうやら水はけの悪い土壌や、窒素の多い土壌では感染し易いのだそうです。確かに現地は粘土質、加えて RBS-G は緩効性です。春先の気温上昇で土壌中の微生物が活発となり、RBS-G に含まれる窒素成分の分解が促されて窒素過多に至った可能性は十分に有ります。あ～農業ってなんて奥が深いの！さよならニンニ君（涙）。

この仮説を裏付けるためにも、来季に再びニンニク作り挑戦します。但し、今度は小規模で・・・



無残なニンニク畑



黄色く変色した葉

続、ジャガイモよ！再び

Vol.7 で紹介しましたが、大久野倶楽部の原点はジャガイモ栽培でした。品種は昨年同様のキタアカリ、植え付け後 3 週間ほどで発芽し、現在は順調に成長しています。失敗を踏まえ、今年はしっかり間引きを行いました。

昨年は RBS-G の添加有無のみの比較試験でしたが、今年は RBS-G に不足しているカリウム (K) を添加した畝、比較用に化成肥料を添加した畝を加え、全 4 試験区で実証しています。写真は植え付け後 1 ヶ月の様子ですが、施肥なしの畝と比較し、他の 3 畝の葉の成長は顕著です。収穫予定は 6 月頃、今年は収穫のタイミングを焦らずに臨みます。



植え付け 1 か月後の様子

今後の展望

昨年末に植えた春野菜が実りの時期を迎え、正真正銘 2 年目に突入です。昨年は、トウモロコシやピーマンなど様々な夏野菜に挑戦しましたが、ことごとく虫の洗礼を浴びました。地元の先輩たちからは、農薬なども賢く使用すべしとアドバイスも頂いています。まともな作物が作れなければまともな実証が実現できない、この 1 年で学んだ教訓です。この経験を踏まえ、まずはまともな作物作りを目指します。

また、今年は日の出三六会の皆さんが行うもち米作りにも参加します。RBS-G によるメタン抑制効果を実証することが目的なのですが、育成過程にも考察のヒントがあるのではないかと考えるからです。先輩たちの指導を仰ぎながら、5 月の代掻き、6 月の田植えと初体験が続きます。かいた汗は無駄にはならない、そんな思いで励む大久野倶楽部です。